

「子どもの徳育」等に関する論点・課題について

【 第1・2回会議における委員意見等から 】

徳育・子育て等の在り方

社会環境

【社会が抱える問題・病理】
※子どもの問題は、大人社会が抱える問題・病理の写し

【近年における社会構造・環境の変化】

- * メディアの影響
 - ・ 匿名性、姿を見せないコミュニケーション、バーチャルな世界の拡大、
 - ・ いじめを助長するようなテレビ番組
- * 経済環境の悪化
 - ・ 厳しい経済状況の中で子育てをしている親の増加

子どもの発達特性・発達課題

【乳幼児期】

- * 愛着の形成
- * 「心の理解」の萌芽

【学童期】

- * 道徳的他律
- * 「心の理解」の発達（9歳の壁）

【青年前期】

- * 親からの自立・自我の解体と再編成

【青年中期】

- * 道徳的自律

教え・身につけさせるべき内容・方法

○ 何を、教え・身に付けさせるか（内容）

- * 自らを律すること（精神の鍛錬）
 - * 善悪に対する知識と感性
 - 「なぜしてはいけないのか」を感じる感覚
 - * 市民性、共同性・公共性への志向、社会的信頼
 - * 人としての基本的なモラル
- 「徳」の主体化・社会化
（気がついたらそういう行動に出ていて、それが人間としての規範、社会の価値・秩序にも合致しているようになること）

○ どうやって、教え・身に付けさせるか（方法）

《どの時期に・どの順序で》

《参考》 乳幼児精神保健等の知見（赤ちゃんの生まれ持つ力等）
 発達心理学の知見（道徳性の発達、心の理解、自立のプロセス等）

《どのような手法で》

- * 「ことば」を活用した心の教育
（「ことばで育つ豊かな心、心を傷つける分別のないことば）」
- * 子どもの良い面を伸ばす道徳教育

《どのような教材を使って》

- * 絵本を読む活動、名作・名文に触れる（を聞く）活動

留意点

- * 「宗教（戒律）を持たない」我が国において、価値や規範・規律の根拠を何に求め、それらをどう教えていくのか。
 - ※ 芸術、宗教、スポーツ、文化を、科学技術、社会科学と並ぶ教育の主軸の1つとして改めて位置付けし直すべきではないか。
- * 大人の規範としての善悪を早いうちから子どもにたたき込むこと、子どものやるべきことを大人が決めてしまうことによって、結果として子どもの情動を殺し、子どもの「生きること」を奪っているのではないか。

家庭・学校・地域等の役割分担

○ 誰が、何をするか

- * 家庭
 - ・ 「家訓」を作る
 - ・ 親子の共通体験を重ねる
- * 学校
 - ・ 学習習慣を身に付けさせる
- * 地域
- * その他（福祉、企業、警察、…）

〔+ 連携して取り組むべきこと〕
 ※ これまで学校に多くを求めてきたが、それだけでは限界
 → 一人一人の子どもへの適切な理解とサポート